



TITLE:

天象

AUTHOR(S):

---

CITATION:

天象. 天界 1933, 13(143): 114-115

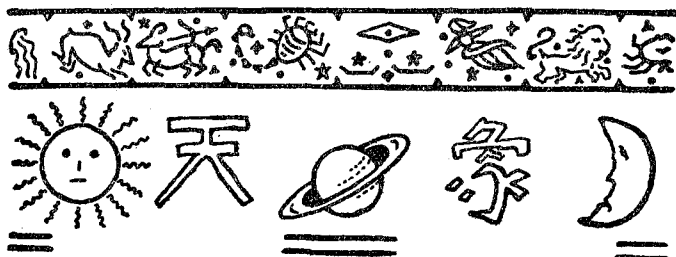
ISSUE DATE:

1933-02-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/162322>

RIGHT:

一九三三年  
(昭和八年)

三

(花山天文臺)  
月

## I——太陽と月 (天空の明暗)

日付	太陽			月			月の相
	日出 (星 座)	日没	月齢	月出 (星 座)	月没		
日	時 分	時 分	日	時 分	時 分		
1	6 27 (めづかめ)	5 53	4.1	8 41 (ひつじ)	23 0	●上弦 4日19時23分	
6	6 21	5 57	9.1	12 14 (ぎょしゃ)	2 47		
11	6 14 (う を)	6 1	14.1	17 35 (し し)	5 48	○満月12日11時46分	
16	6 7	6 5	19.1	23 29 (てんびん)	8 24	●下弦19日 6時 5分	
21	6 0	6 9	24.1	3 25 (い て)	13 29		
26	5 53	6 13	29.1	5 50 (う を)	18 47	●新月26日12時20分	
31	5 46	6 17	4.5	8 25 (う し)	23 45		

## II——遊 星 界

**水星** 月始めには夕方星で7日5時東方離角(18°14′)光度0等, 魚座春分点の近く。視直徑約8″。23日17時内合。以後明方。

**金星** 明方東天にわずか見られる。外合に近く観望には不適。

**火星** 獅子座を逆行中。光度—0.7より—1.0迄視道経は2日, 13′.87。日没と同時に昇るから終夜観望の好期。今回の接近では火星の北半球が夏で, 天體望遠鏡で見ると下側に北極冠が小さく輝いてゐる。10センチでも模様のある事はわかる。

**木星** 獅子座にあり。赤い火星の東に並んで輝いてゐる。9日17時に對衝で光度+2等, 視直徑41″.4, 北半球(下)には太くて班の多い帯があり, 南半球には淡くて細かい帯が無数に見えてゐる。

**土星** 山羊座にある。月初の太陽より2時間弱早く登る。今後次第に観望しやすくなる。1日光度0.9等, 本體の視直徑14″, 環の長半徑34″.8, 短半徑10″.3, 北側が見えてゐる。

**天王星** 宵の星。魚座南部にあるが太陽に近く観測困難。光度6.2等。

**海王星** 獅子座ロ1星の南を逆行中。視直徑2″.6, 光度7.7等。

**冥王星** 双子デルタ星の東。光度15等。

<b>流星</b> 1日——4日。獅子のγ 緩	18日頃。セフェアのβ 緩
15日頃。龍のη 速	

## 三月の夜の天空

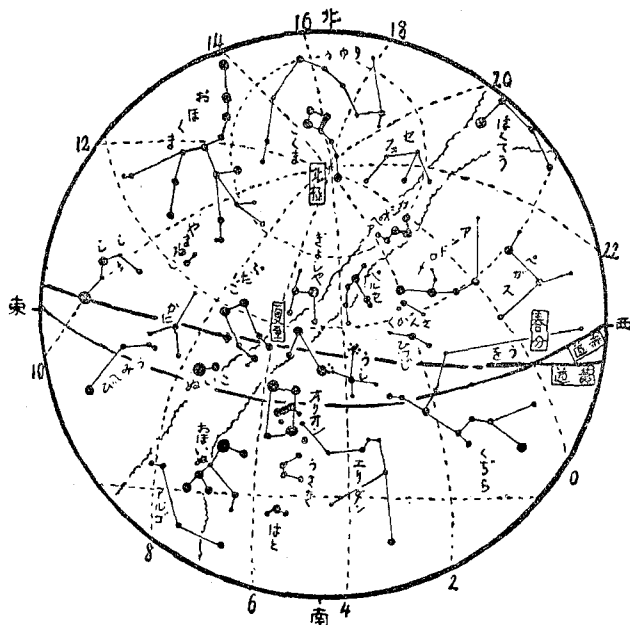
(恒星時 Sidercal Time 4時40分)

日本の中央部(京阪神地方)で

3月1日ならば午後6時. 15日ならば午後5時

東京は約15分早く、福岡は約20分遅く現はる

但し時刻は日本中央標準時



## III 早春三月の星座

夜も冷いながら何とはなしに温さの感じられる頃となる。

晝が次第に長くなるので、日が暮れてすぐ見える星々は、日毎にめだつて早く西へといそぐ。

銀河は、冬の南天を飾つてゐたオリオン大犬、双子をのせて、西へ西へと傾く。代つて東から昇つて来るものは春の先驅者の獅子で、昨年の暮には針の様な流星雨を、その口より吹き出してゐた。純白な乙女座も可愛らしい、烏の四邊形も、つゞいて霧を分けて昇つてくる。

北を振り反れば、北斗がはや高く中天にかゝつて、水のしたよりは、まきを座の一等星アークトゥルスとなつて輝いてゐる。

何處となくほの白い銀河の中にひたつたカシオペヤのWが、冬がれのまま立つてゐる木立の中へおちてゆく。

ペルセウスや駈者、その南のプレヤデスも、長い旅をおへて、夜更けと共に次々と西に没し去る。